

## 第52回(2023年度)地域安全学会研究発表会(春季)に参加しました(2023/5/27-28)

テーマ：災害科学

場 所：神奈川大学みなとみらいキャンパス（神奈川県横浜市）

5月27日（土）～28日（日）の2日間、地域安全学会の春季研究発表会が、神奈川大学を会場に開催されました。地域安全学会は、研究者、技術者、国や地方自治体の実務家などによる、自然災害や人為災害を対象として地域の安全問題に関する研究を行う学会です。

1日目は、関東大震災100周年記念一般公開シンポジウム、総会、研究発表会が、2日目は、視察ツアー「横浜と東京でめぐる関東大震災」が開催されました。当研究所からは、村尾修教授（国際防災戦略研究分野）が学会会長として総会の議事等をつとめたほか、関東大震災特別セッションにて基調発表を行いました。当研究所からは、佐藤翔輔准教授（防災社会推進分野）、新家杏奈助教（イオン防災環境都市創生共同研究部門/防災社会推進分野）が登壇し、合計で13編の一般論文（うち、筆頭著者3編）の研究発表を行いました。毎年、春季研究発表会では、優れた研究発表に対して優秀発表賞（対象：指導を受ける立場にある40歳未満の者）が数件選出されますが、全5件のうち2件の受賞者は当研究所の教員が指導し、共著になっているものでした。

発表論文は次の通りです。

### 【特別セッション】

※下線は当研究所所属の教員

村尾修ほか：1923年関東大震災から100年：都市防災からみた首都圏拡大の再考（1891-2023年）

稲垣景子，村尾修ほか：神奈川県における関東大震災の被害—100年の歴史から未来を考える—

### 【一般論文】

藤原叶多，村尾修：関東大震災以降の東京都市圏の露出度変化に関する研究

Yitong DONG，Osamu MURAO：Assessment of Open Space Performance in Tokyo from the Perspective of Urban Disaster Resilience

米村文武，村尾修：東京都の木造密集市街地における空き家の発生と解消—墨田区におけるケーススタディー—

新家杏奈，佐藤翔輔，今村文彦ほか：二重過程理論にもとづく津波避難行動に関する証言の分析  
※優秀発表賞

渡邊勇，佐藤翔輔，今村文彦：来訪者視点での震災伝承施設の特徴の布置：東日本大震災の65施設を対象とした試み ※優秀発表賞

加藤春奈，村尾修：1923年関東大震災に関する研究の変遷（1968-2023年）

佐藤翔輔，佐藤健，今村文彦ほか：防災教育における災害伝承の位置付けの実態（1）：「ぼうさい甲子園」受賞校の学習内容の分析

山崎稜大，佐藤翔輔ほか：若者主体で行う防災アイデアソンの実践とその効果—南海トラフ地震想定エリアの大学生連携—

佐藤美月，村尾修：災害を考慮したインドネシアと日本における基本事項の比較考察

Jingyi GAO，Osamu MURAO：Exploring Social Media Activities During Extreme Rainstorm Disasters: A Case Study of Henan Floods in July 2021, China

北村美和子ほか：セクシャルマイノリティの人々の災害時の困難を理解するための日本における探究的研究

文責：村尾修（国際防災戦略研究分野）、佐藤翔輔、新家杏奈（共に防災実践推進部門）  
（次頁へつづく）



会長挨拶（村尾教授）



発表の様子（佐藤翔輔准教授）



発表の様子  
 （新家助教（優秀発表賞））



発表の様子  
 （渡邊勇氏（津波工学研究分野博士2年）  
 （優秀発表賞））



会場の様子



関東大震災遺構について説明する村尾教授



東京都慰霊堂での関東大震災に関する解説



東京都復興記念館での集合写真